

仏に出会う

インドで仏教が誕生した当初は、「仏像」というものは存在しませんでした。やがて仏教が世界的に広がりを見せ、いく過程で、ヨーロッパなどで偶像崇拜を行う宗教文化と接触し、仏像が造られ始めます。

ガンダーラ(パキスタン北東部の古名)の仏像は、西洋的な彫りの深い顔立ちをしています。やがて中国で仏像が造られ始めると、日本でもなじみ深い仏像のスタイルが固まってきました。日本に仏教が伝えられた当初の仏像は、朝鮮半島の影響を色濃く残し、どこことなく異国情緒あふれた顔立ちをしていましたが、しだいに日本的なものへと変化していきます。

仏像の顔は、造られた土地土地の影響を強く受けます。島根の仏像には、どのような島根らしい個性があるのでしょうか。これからご紹介する島根県に残っている代表的な仏像たちから、島根の仏像の特徴を見つけ出してみてください。



銅造誕生釈迦佛立像
(石見国分尼跡：浜田市国分町)〔白鳳時代〕
右手で天を指さす釈迦の姿が生き生きと表現されている。国分寺でも釈迦の誕生を祝う灌仏会(花祭り)が行われていたことを示す貴重な資料。



木造薬師如来坐像
(仏谷寺：美保関町美保関)〔平安時代〕
スキー帽をまぶかにかぶったような、大粒の螺髪が特徴的。



如来

悟りを開いたあとの釈迦様などをモデルにしたのが如来像です。出家したあとの姿ですから、冠などを身につけることなく王者の姿を表現した大日如来を除き、世俗的なアウツセサリーや髪飾りなどをまったくつけず、粗末な衣を着ているだけというのが特徴です。

薬師如来は、左手に薬壺を持っている如来です。東方浄瑠璃世界の教主で、その名のとおり病気を癒して苦痛を取り除き、寿命を延ばす徳を持っています。現世利益を中心とした信仰のため、中国・朝鮮半島から日本まで、早くから多くの信仰を集めてきました。

阿彌陀如来は、人間が死後、極楽で生活したいと願う西方極楽浄土の主宰です。現在では、自分の往生を願う信仰になっていますが、本来は、死者を追善供養するための信仰であったようです。



菩薩

悟りを開くための修行中のお釈迦様などをモデルにしたのが菩薩像です。出家前なので、たたくのアクセサリーを身につけ、冠を被ったり、昔のインドの貴族の子女のような格好をしています。

観音菩薩は、正しくは「観世音菩薩」「観自在菩薩」と呼ばれる慈悲の菩薩です。「世間の人びとの救いを求める音(こゑ)を感じる」と、ただちに救済の手をさぐることの「一切諸法の観察や、人びとの救済が自在である」などの意味を持っています。多くの救済の要請に答えなければならぬため、「千手観音」「十一面観音」などさまざまな変化観音があります。

仏像の見方講座【1】

仏像探訪の旅へ

最近日本中の有名寺院で、仏像探訪に訪れる人の数が増えていると言われています。とっやから日本の古寺・仏像には、現代人を引きつける不思議な魅力がいっぱい詰まっているようです。

「神々の国・島根」でも、数の上では京都・奈良に劣るものの、地域色豊かな古寺・古仏がたくさん残されています。しかし、せつかく古仏探訪に訪れても、その仏像が如来なのか菩薩なのか、あるいはなぜこれが如来と呼ばれるのかわからないと、喜びも興味も半減してしまつてしまう。ここでは、仏像の簡単な見方を紹介していきます。

仏像の種類

仏教は、お釈迦様の教えに始まる宗教です。そしてその教えが広まるにつれて、ヒンドゥー教や道教など、土地土地の神を取り入れながら、しだいに発展していきます。そうしたなか、役割に応じたさまざまな仏像が生み出されていきました。ですから仏像にはお釈迦様だけでなく、羅漢や聖徳太子など歴史上の高僧や偉人などをモデルにしたものもあり、それらも人びとの信仰の対象になっています。

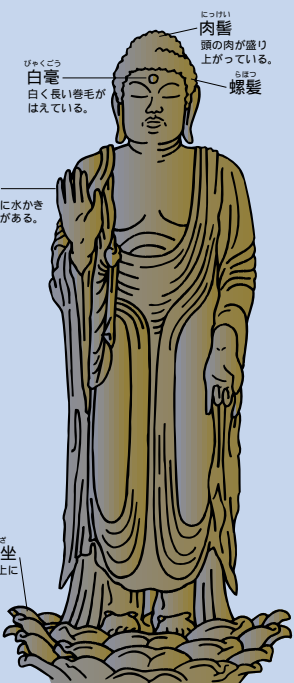
しかし基本的には、仏像とは如来「菩薩」「明王」「天部」の四種類を指して言います。

仏像の名前の付け方は？

仏像の名前は、仏像の材質、仏像の名前、仏像の種類、仏像の形の順であらわされます。たとえば上の仏像の場合、木造(材質)薬師(名前)如来(種類)坐像(形)となるわけです。薬師如来の場合、薬壺を持っているのが特徴です。

理想のお釈迦様〜三十二相とは？

お釈迦様には、ふつつの人と違う身体の特徴が三十二あると言われ、それが仏像を造る際の参考になっています。よく知られているものとして、肉髻、白毫、螺髪があります。



手印とは？

仏の手の形を手印(印相)と言い、その仏の功德や法力をあらわしています。仏の種類や名前を見分ける際の、手がかりにもなります。



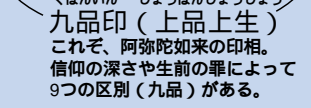
じょういん 定印
軽くまぶたを合わせ、静かに考えているときの形。



ちけんいん 智拳印
右手が仏、左手が惱める人びと。惱める人びとを仏にみちびく形。



てんぽうりんいん 転法輪印
仏の教えによって迷いを打ち砕くという意味。



くほんいん じょうほんじょうしやう 九品印(上品上生)
これぞ、阿彌陀如来の印相。信仰の深さや生前の罪によって9つの区別(九品)がある。